

かるがも



第26号

発行所 千葉県こども病院
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1
TEL 043-292-2111
FAX 043-292-3815
<http://www.kodomo.umin.jp/>

新年度を迎えて



病院長 伊達裕昭

桜が開花した後も、なかなか暖かな春の陽射しが続くことが無かったためか、今年はいつよりも長く花を楽しむことができたように思います。その一方で、不安定な気候に体調を崩される方も増えているようです。くれぐれもご注意ください。

平成22年の新年度を迎え、病院内部の主な職員異動についてお知らせ申し上げます。平成19年度から3年間にわたり当院の運営に尽力された松本事務局長が北総県民センター所長に異動となり、県庁総合企画部から石川事務局長を迎えました。新しい視点でこれからの病院運営に参画してもらいます。



医療局では開院時から当院の運営に携わってこられた病理の堀江検査部長が退職され、当院の始まりからの歴史を知る職員がまた一人減ってしまいました。また看護局ではこども家族支援室を担当した尾出副看護部長が県がんセンターに異動し、後任として県庁健康福祉部から川上副看護部長が赴任しています。他にも皆さまに長く慣れ親しんでいた職員にも異動があったと思いますが、これまでの業務に支障を生じることが無いよう、後任が対応に努めます。前任者と同様、どうかよろしく願い申し上げます。



昨年度は新型インフルエンザ騒ぎに翻弄された一年間でした。成田空港での侵入を阻止する水際作戦に始まり、感染拡大を防ぐためのマスク着用や手洗いの励



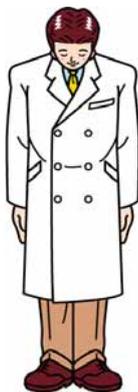
行および医療機関受診の指示、ワクチンの供給と接種対象の確定など、国を挙げての危機管理の体制が問われました。患者発生ピークは例年よりかなり早く、10～12月になりましたが、結果的に重症化する割合は高くなく、大きな混乱には至りませんでした。

しかし、こうした新型ウイルスに限らず、さまざまな病原体による感染は、抵抗力の少ない乳幼児や病者をお預かりする当院のような医療施設にとって安全を脅かす大きな問題です。看護局と連携して、今年度からは医療安全管理室に専従の感染管理認定看護師を配備することができました。部門や部署にとらわれず病院全体の感染対策のために活動し、院内での新たな感染症の発生や拡がりを阻止する大きな役割が期待されます。

今年度の当院の最も大きな運営課題は、産科新病棟の増築と駐車場の増設です。出生後に当院の医療的ケアが必要になることがあらかじめ判る妊娠に対しては、出産前後の連続した診療ができるよう、産科を併設することが昨年度に決まりました。今年度の後半から約1年間をかけて始まる増築工事に伴い、現状でも不足がちな駐車場がさらに減少する事態が想定されるため、これに先立ち、現在の第三駐車場の奥に新たな駐車場を整備する予定です。ご来院の皆さまには大変ご迷惑をおかけしますが、どうかご了承下さい。



また今年度は2年ごとの診療報酬の改定年度に当たり、4月から医療費が変更されています。今回の改訂のポイントの一つとして、診療内容がより明らかになった明細書を無料で発行することが医療機関に義務づけられたことが挙げられます。当院でも、ご希望の方には、薬剤の名称や検査の項目が明らかになった明細書を会計窓口にて無料で発行しておりますが、自動精算機でお支払いの皆さまにはまだ器械が対応できておりません。年度内に対応できる予定ですが、それまでは発行を希望される方はどうか会計窓口へお申し出下さい。



最後に、すでに各報道機関を通して発表いたしました。過日発覚した職員の不注意による過去の入院診療録の紛失について、改めて深くお詫び申し上げます。個人情報の流出を生じた事実はなく、また今後の診療に差し障ることがない状況は不幸中の幸いでしたが、医療情報の取扱いにはより一層の注意を払い厳正な管理を徹底することで、皆様の信頼を回復できるよう、職員一同、取り組んでまいります。



平成22年度の始まりにあたり、当院に対する皆様方の一層のご協力とご支援をお願いして、ご挨拶に代えさせていただきます。